

筑志会 2024 忘年会

12月7日（土）お昼、筑志会の忘年会が開かれた。

25名の参加で、盛大に行われた。

まずは、様子を写真で紹介



幹事の福島君の挨拶に続き、原君の乾杯の音頭で始まった。



関君は突然の入院で参加出来ず残念。しかし奥さんと息子さんが参加してくれた。

もう一人（女性）は、体調を考えて娘さんが付き添いで参加してくれた。

名古屋からは、高阪さん（田中洋子）が体調を押して参加してくれた。

広島からは松浦君も駆けつけてくれた。

残念なことに、参加予定だった篠塚さんは、体調不良で急遽不参加となった。

今回は、事前に全員に近況報告をして貰う事を伝えていたので、近況報告も時間どおりに進み、今までは 近況報告の最中に、結構仲間内でしゃべったりして、騒がしかったが、今回は「全員の報告を、参加者全員が 静かに聞いていた」事が印象的だった。





関君の奥さん 息子さん

付き添い（娘さん）



皆の報告は、我等の歳で、楽しい報告もあったが、病気、本人の体調、連れ合いや親の介護など、身につまされるような話もあり、本当に皆が静かに聞いていた。中には話の内容に涙する場面もあった。歳を感じてしまった。

余興：

事前に、じゃんけんゲームをやるので、賞品として幹事会は宝くじを五枚用意していて、参加者には賞品になるようなお土産があれば持参してもらえるように頼んでおいたら、なんとなんと、沢山持って来てくれて、賞品の数が参加者人数を上回って仕舞うほどだった。 ジャンケンゲームの様子は、写真班も参加していたので、写真は撮れなかった。

後、幹事から、21 回生ホームページの運営の報告があり、皆で議論したが、やはり多かったのは、昨今の世相を反映して HP での個人情報の漏洩、セキュリティーの心配が一番多かった。皆の意見も取り入れて、HP 上で HP 運営についての意見を、21 回生に公募するような体制を取ろうと、HP 委員で話し合っている。

楽しかった 2 時間 3 0 分も終わりにになり、全員で写真を撮ってお開きになった。



世の中、おかしい事、嫌な事、戦争など、本当に気が休めない時代だが、

「老い先短い」なんて考えないで、これからの「老いの時間」も、意外と長いんだよ！！

我等 21 回生は、頑張って「生き抜いて！」

来年も全員で元気な姿で会いたい！

歳は老いても、気持ちまで老いるなよ！

東京駅探索－筑志会

第 1 2 便でお知らせしたように、筑志会における「東京駅探索」

を、原君の懇切丁寧な説明・解説に従って、編者なりの編集で掲載します。

2 1 回生の中にはゼネコン出身も多いと思うし、全国の 2 1 回生のみならず、

関東・東京在住の 2 1 回生も知らなかったような東京駅の情報が紹介されます。

長いですが、ゆっくり読んで、楽しみ、東京駅の物知りになって下さい。

1 1) まず最初に、「復元と復原」の違いについて

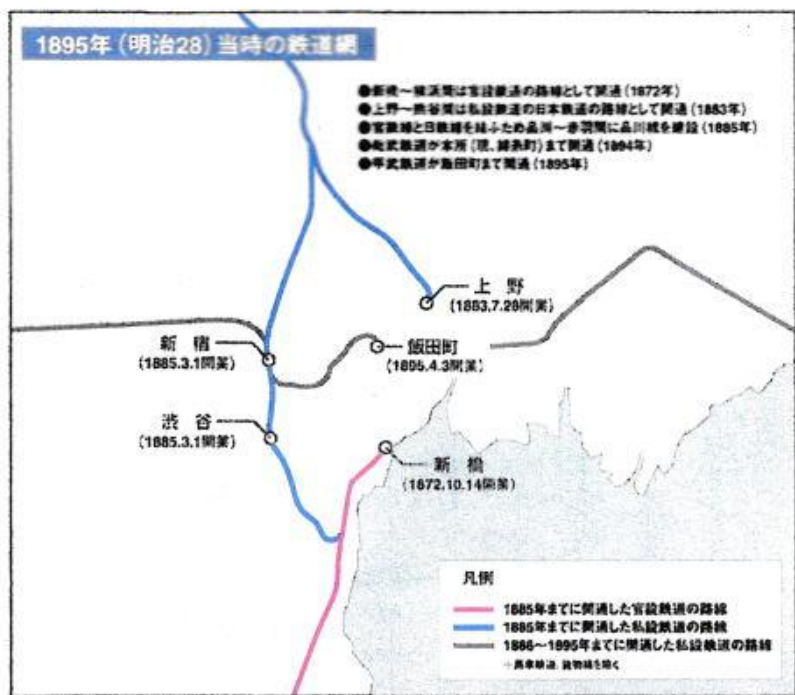
構造、材料等を全く同一に新たに作る（元に戻す）のが「復元」、

構造、材料等は異なるが外観上同じように戻すのが「復原」。

東京駅は「復原」になります

22) 東京駅舎の開業から戦災まで

1. 明治22年 東京府が日本初となる大規模都市計画である「東京市区改正条例」を公布。
鉄道の東海道方面の起点であった新橋駅と東北方面の起点であった上野駅の両停車場間を結ぶ高架鉄道を建設し、その中間に当たる現在地に中央停車場を設ける事を計画しました。



※ 明治23年当時は国鉄は新橋からの一本（赤線）しかなく、関東の他の鉄道は私鉄（青線）だった。

※ 明治政府は、そこまで「金」が無かった??

2. 中央停車場の設計は当初は日本の鉄道の技術指導に当たっていた二人のドイツ人技師が行っています。日本の駅を意識して和洋折衷のデザインでしたが、西洋を手本に近代国家の形成を図り、西欧諸国に追いつくことを目指していた当時の日本政府や鉄道関係者に採用されませんでした。

3. 明治36年に政府は明治建築界の重鎮であった「辰野金吾」に設計を依頼します。辰野はヨーロッパで西洋建築を学び、日本銀行本店を始めとする200余りの建築物を設計した近代日本をリードした一人です。辰野はドイツ人技術者の設計案の建物配置を踏襲しつつ、中央停車場にふさわしい西洋建築物としての駅舎を設計しました。

※ 辰野金吾は後で紹介します。

4. 明治37年以降、日露戦争の勝利などを受けて建設予算が大幅に増額された第3次案まで3回提案されています。最終案である第3次案は明治43年に完成しています。
5. 構造は鉄骨、レンガ造り。当時既に鉄骨、コンクリート建築の技術はアメリカ等で開発・使用されていましたが、辰野は過去の実績を重視してレンガを選択しました。
6. 明治41年3月に中央停車場の建設工事着工。約6年9ヶ月を経た大正3年12月に名前を「東京駅」と定めて開業しました。
7. 創建当時の駅舎は、皇居に向い西面した南北約335mに及ぶ長大な建築物で、中央部と南北対象の位置に南北ドームを有し、地上3階建て、一部地下1階、延べ床面積は約23,900㎡でした。
8. 復原に当たって基礎は耐震構造に作り替えました。従って従来の基礎はすべて撤去されています。従来の基礎は松杭、約1万本が使われていましたが、どれも痛みはなくきれいな

大正12年の関東大震災でも駅舎は影響を受けませんでした。

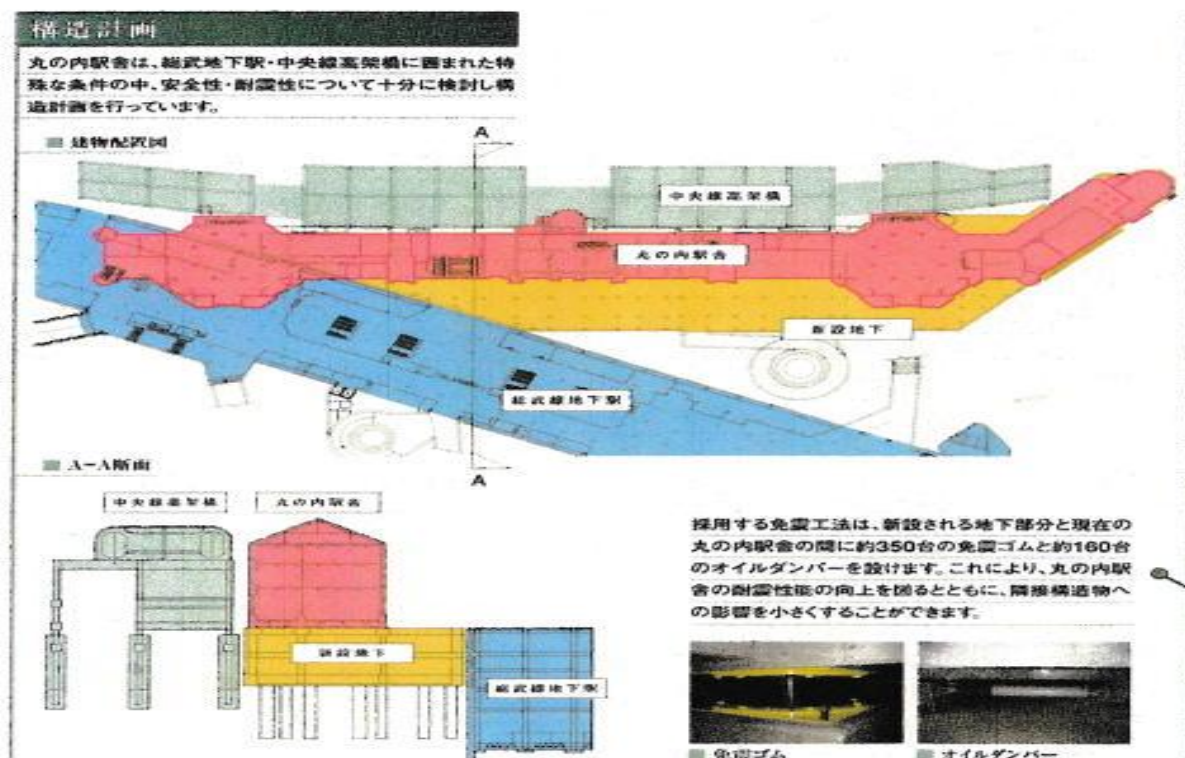
9. 昭和 20 年太平洋戦争の空襲で屋根や内装が消失します。同年に着手した戦災復興工事は昭和 22 年に完成しましたが、中央部と南北ドームを除き 3 階部分を撤去して、木造トラスの屋根を架けた形で 2 階建てとし、南北ドーム屋根の形状を八角形に変更するなど、応急的な工事が施工されています。

3 3) 保存・復原の経緯

2. 平成 11 年、石原慎太郎・東京都知事と J R 東日本・松田昌士社長の会談がきっかけとなって創建当時に復原する方向となり、平成 12 年に「特例容積率適用区域制度」が創設され、未利用容積の周辺地区への移転が可能になりました。その後、平成 14 年に東京駅舎を創建時の姿に復原することが決定しています。

[illegible]

平成12年に都市機能が集積する大都市の既成市街地のうち、特に土地の高度利用を図る必要性が高い区域に対して、容積の移転により高度利用を促進するために「特例容積率適用区域制度」として創設された制度。平成16年に当初の目的に加え市街地の防災機能の確保等のためにも活用できるように地区指定の範囲を拡大できる内容に改正され「特例容積率適用地区制度」となった。本計画は、特例容積率適用地区制度を活用し、丸の内駅舎の未利用容積を周辺建物に移転することで、東京駅周辺の開発を促進します。



3. 平成 15 年、鉄道史上重要な建築物であるとともに、近代建築としての文化的価値が認められ、国の重要文化財に指定されています。
4. 総工事費は約 500 億円。全て J R 東日本が負担しましたが、丸ビルや東京ビルディングへの容積率移転により、その原資を賄っています。なお施工は鹿島建設です。
5. 平成 19 年（2007 年）5 月着工、約 5 年を経て平成 24 年（2012 年）10 月に竣工しました。

正直、関東組はこの時点以前から、東京駅を見ているはずだが、ここまで変化していたとは気が付かなかった。

普段、何気なく通り過ぎるだけで、駅舎やドームなど気にした事も無かった。

4 4) 設計にあたって

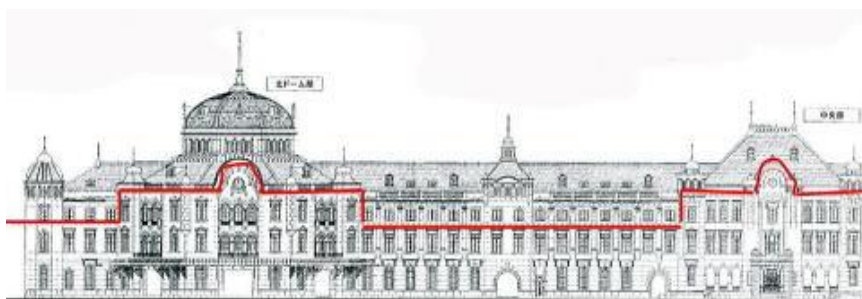
1. 3つの基本方針

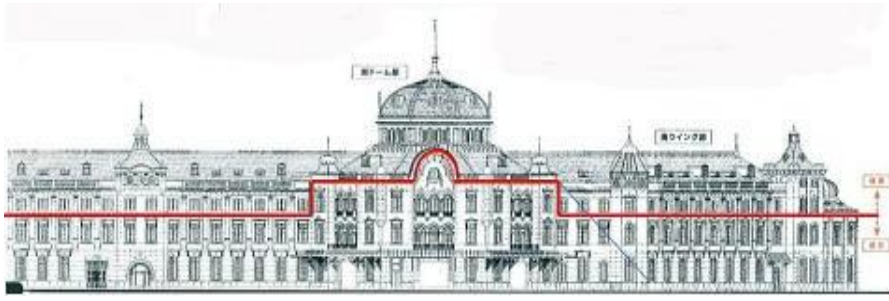
- ① 風格ある都市景観の形成 ～外観とドーム内の復原
- ② 歴史的建造物の承継 ～現存する部分を可能な限り保存
- ③ 赤レンガ駅舎の恒久的な保存・活用 ～駅・ホテル・ギャラリーとしての活用

なお先ほど説明したように基礎を取り換えるために、駅の地下の土は撤去し、結果的に地下空間が作られました（新設地下）。



2. 残存している建物を可能な限り保存しながら創建時の姿に復原することを基本としています。具体的には、
1 階、2 階の既存レンガ躯体と内臓鉄骨、広場側既存壁は保存する。
3 階の広場側外壁、1～3 階の線路側外壁は復原する。屋根とドーム 3、4 階の内部見上げ部は復原する。
3. 現存する創建当時の写真や工事記録、実施図面などを基に復原工事の設計を行い、学識経験者の指導も受けながら、創建当時の姿を再現しました。表面の化粧レンガも色や形状、施工方法を創建時のものに近づけています。
4. 屋根のスレートは天然スレートを使用しています。創建時の雄勝産（宮城県石巻市）の純黒の天然スレートの屋根は戦災で全て消失しました。旧駅舎時代の平成 2 年に、ほとんどが登米（とめ）産（宮城県登米（とめ）市）の天然スレートに葺き替えられています。今回の復原にあたり健全な
スレートは再利用され、特に象徴的な南北ドーム屋根や駅舎中央部には、東日本大震災（2011 年 3 月）の津波に耐えた雄勝産のスレートが使われています。
5. 外壁については、3 階に復原する新しい材料と既存の 2 階までの材料がかけ離れないよう色合いを合わせています。3 階外壁の復元に伴い、柱の形状も創建時の姿に復原しました。保存部分の外壁の
基礎、窓周り、柱頭飾りなどには花崗岩が使用されています。復原の部分は花崗岩粉、石灰、セメントを調合した凝石を使用して花崗岩に似せて仕上げています。窓の建具は創建時は木製でしたが戦災で喪失しました。鋼製で復興しましたが今回、デザインをオリジナルにしてアルミで復原しています。





※赤線の下が、旧駅舎のまま、赤線の上が復原された部分

6. 化粧煉瓦（60.5X 109mm）は、1. 2階の保存部分は創建時のものです。極めて平滑かつ

継ぎで鋭利な角（ピン角）が特徴。復元された3階部分の外壁鉄骨・鉄筋コンクリートの上に、新しく焼かれた化粧レンガが貼られています。

7. 化粧レンガと化粧レンガをつなぎ合わせる覆輪目地（断面が半円形）は、創建時同様の覆輪目地で施工

されています。また、目地の交差部も「かえる股」と呼ばれる形状が再現されています。覆輪目地は

専用のもので、高い技術が必要で日本独自の手法とのこと。レンガの美しさを引き立て

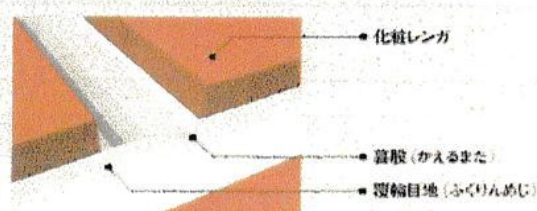
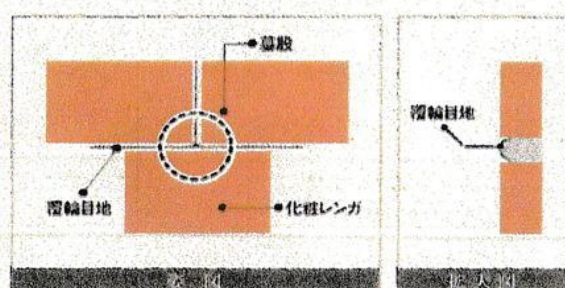
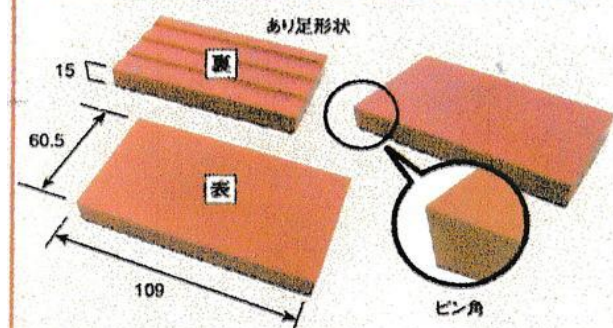
る効果もあり、「見せる目地」と言われるほど、特殊で伝統技術の一つですが、ほとんど継承されて

いないそうです。一から研究して再現したと聞いています。

化粧レンガの再現

化粧レンガは、創建時のものに近づけます。

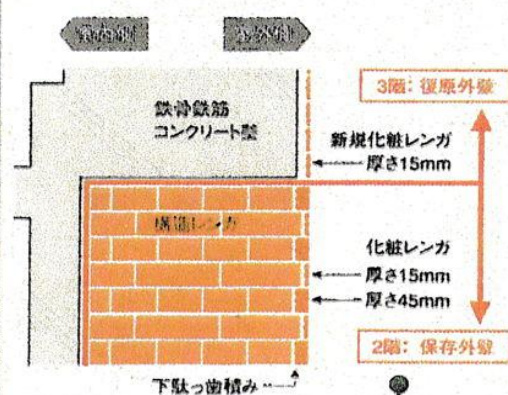
- 1 色の再現
- 2 平滑さとピン角の再現
- 3 創建時の寸法精度の再現



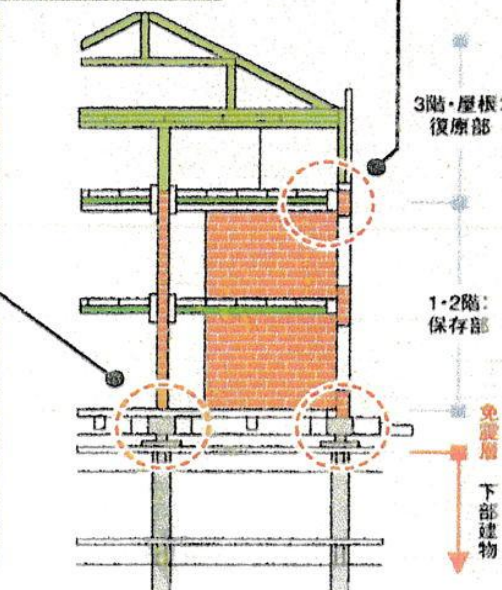
復原部の躯体

復原する3階の躯体は、鉄骨鉄筋コンクリート壁でつくります。

2階と3階の境界部断面



構造断面イメージ



5 5) 免震構造

1. 必要かつ十分な安全性と耐久性を確保するため、鉄骨鉄筋コンクリート造の地下階を新設し、新設した地下階の上に免震装置を設置して地上の駅舎を支えるという免震構造としました。東京駅は総武地下駅の函体とこの新設地下の函体に載っている構造になっています。
2. この免震構造を採用する事により、レンガ壁や床組鉄骨など創建時より残る既存駅舎の構造体を可能な限り保存・活用しています。
3. 既存駅舎を「仮受け」するため、1万本を超える松杭を避けた位置に先行して新しい杭を打ち、順次新しい杭上へ既存駅舎の荷重を移行しました。その後、既存の松杭を撤去し、地下階を構築、地下階が完成した時点で、免震ゴムに地上部の駅舎の荷重を移しました。



実は駅舎建物の淵に沿って、下に結構深い溝がある。

この溝が、建物側の地下（免震構造）とその前の広場（通常地盤）の分け目であり、

地震が起きると、この双方で揺れが違うと言う。知らなかった！

6 6）駅前広場

1. 東京駅復原に合わせて東京都は「東京駅前広場と行幸道路」の全体的な構想を定めています。このトータルデザインの骨子は「駅前広場と行幸道路、両者の中央部分を人に開放すること」だそうです。
2. 駅前広場の中央口から行幸広場に向かって大きな「人の広場」を造り、その「人の広場」が行幸通りの中央部分に作られた幅広の「人の道路」に結びついています。それによって、東京駅を降りた人達は、まっすぐこの中央道を通り皇居に到達することができます。
3. バス、タクシー等の自動車交通広場は、駅前広場の南端と北端の二か所に、できうる限り規模を抑えて配置しています。
4. この交通広場を隠すように、駅前広場の西北と西南の角には中くらいの木を主体とした厚みのある三角状の樹林群を配置しています。周りの建物から広場全体を見渡せるように高木でなく中木としています。

7 7）南ドーム

1. ドーム天井は格子を升目に組んでいます。天井の大輪と放射線状のラインは木製のイメージをガラス繊維強化石膏によって再現しています。大輪の周囲の白い花飾りレリーフはクレマチスという花の模様で 16 個配置されています。

2. 南北ドームの見上げ部分：白い大鷲（約2.1m）の彫刻8羽と豊臣秀吉の兜を模ったと言われる兜のキーストーン（要石）や十二支の干支のレリーフ、剣、鳳凰等が配置されています。
- ドーム内の漆喰の色は、当時の文献を参考に黄卵色ではれやかに仕上げられています。

※ **なんで徳川幕府の江戸城前の東京駅に、秀吉の兜が睨んでいるの?????**

3. 豊臣秀吉の兜を使った理由は不明です。なお兜は豊臣秀吉が太閤と呼ばれるようになってから使ったといわれている馬蘭後ろ立付（ばりんうしろだてつき）の兜だそうです。
4. 十二支の干支は8角形四隅のレリーフは方角を示しています。**8つなので**、4つの干支子（ねずみ、北）、卯（うさぎ、東）、午（うま、南）、酉（とり、西）が**何故か使われていません**。
- 使われているのは、丑（うし、北東）寅（北東）辰（南東）巳（南東）未（ひつじ、南西）申（さる、南西）戌（いぬ、北西）亥（いのしし、北西）です。
- 灰緑色をバックにガラス繊維強化石膏で製作されています。

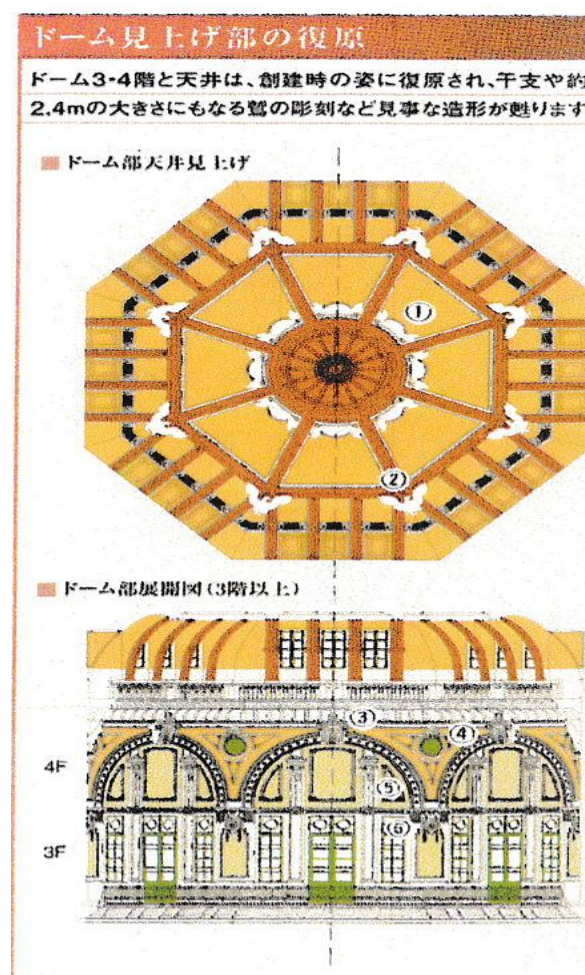
なおここにはない子（ねずみ）、卯（うさぎ）、午（うま）、酉（とり）についてですが、辰野金吾が同じ時期に設計した佐賀県武雄温泉にある楼門2階天井四隅に子（ねずみ、東）卯（うさぎ、西）、午（うま、南）、酉（とり、北）の彫り絵があります。

前回、ここでその話をしたら高本君と福島君が武雄温泉まで調査に行って確認してきています。蛇足ながら辰野金吾の父は唐津藩士。従って**辰野金吾は佐賀県唐津出身**です。



5. 南ドームのアーチ形レリーフに、ほんの一部ですが創建時の石膏のパーツが修復されて再現されています。
6. ドームの柱頭と飾り梁は、創建時にも同じようなものが設置されていたらしく、そのデザインを参考にして作られたそうです。アルミの鋳造で作られ「2012年」と刻印されています。

7. 戦災復興で再建された前東京駅舎のドーム内部見上げ部のデザインは、ローマのパンテオンを手本にしたと思われると言われています。その見上げ部の意匠が、床にデザインとして転写された形でイメージとして残されているそうです。
8. ドーム全体について、色の再現に大変苦労したと聞いています。



このドームには一階の天井部分にあたる手摺りの部分の空間全面に、金網が張ってある。

「上から物が落ちないように???'との質問に、「鳩がドームに入り込まないようにする為」
との答えであった。



後の懇親会で、ここまで原君が調べてくれて説明してくれて、物知りになったのだから、
次回の筑志会の時に東京駅で覚えた事を質問して、テストしようという話が起こったが、、、、
どうなる事やら。

その他、探索風景





ごめんなさい、説明を聞きながらだったので、撮影角度が悪かった。



皇室専用の中央口の前で

如何でした？ 少しは東京駅の物知りになれましたか？

いやいや、ここまで調べて解説してくれた原君に感謝です。

春の筑志会

5月の15日（水）に、筑志会が開かれた。

11時に東京駅丸の内北口に集合して、元国鉄・JRの原君の先導で、東京駅探索、その後、東京駅のレストランで懇親会（2時間半）。参加者は16名。

この12便で、筑志会の報告をするが、東京駅探索の報告は第13便で詳細に掲載します。

場所は 東京駅構内 中2階のレストラン街、 森卯という西洋料理で飲み放題。



時間どおり12時半に全員揃い、食事を待つ。



そして、福嶋君の司会で始まり、田邊君の乾杯で、料理が始まった。

場所としてはめずらしく個室が取れたので、皆リラックスして、最初から盛り上がった。長い席の、半分くらいずつで、お互い色々な話題で盛り上がり、料理も種々出て来て、飲み放題を楽しんだ。

まずは、参加者の顔写真を小さめに（笑）掲載する。かなり酔ってからの撮影だったので何枚づつかを撮って、上手く撮れたな！というショットを掲載します。名前は、敬称略で。



福島、



田邊、



飯田 (眞理)、



待鳥、



三宅



森田、



高鍋、



添田、



須河内、



河合



飯田 (廣美)、



篠塚、



小島、



原、



城野、



棚田





各自の近況報告も、時間がもったいないと廃止、兎に角、色々と語り合いに、、、
中で、最近の筑紫丘は女子の数が全体の半数近くまで増え、すべてが男女クラスとなっているとの報告に
「俺はずっと男子クラスたい、、羨ましか～～」「女子が多くなったけん、ヶ丘は福高を抜いたとよ！女子のが
賢かと！」、また中には小学校からの同級生もいて、小学校時代の話でも盛り上がっていた。

また、東京駅探索時の原君の説明をどれだけ覚えとるか、次回の筑志会で、東京駅についての質問をして、
覚えとるかどうかテストしようと、という話しもあった（笑）

時間を忘れ、語り合っていると、もう時間になってしまった。一応部屋の外は、一般席で昼食時で
混んでいるので、いつもの校歌とエールは無しで、棚田君の一本締めで終わりとした、



次回は秋に予定しているが、その前に 6月29日（土）に上野で 志士の会が有るので、また会える。
やはり、同級生との懇親は楽しい。楽しみにしておこう。
冒頭で言ったように、原君の解説を交えての東京駅探索の報告（現在作成中）を次回掲載するので、
そちらの方も楽しみに。

筑志会 忘年会

6月の志士の会に続いて、12月2日（土）に、筑志会の忘年会が開かれた。
当初、26名の予定だったが、直前の体調不良・コロナ感染などでの欠席者
が出て 23名の参加となったが、皆の感想は、一様に「楽しかった！」
その様子を、写真中心に報告します。

（注）実は、会場は写真で見ると意外と暗く、陰になる所も多く、

写真の露出が上手く行かなかったので、
あとで明るく修正したものを掲載している。
その為、写りが悪いものもあるので、ご了承を。
増田君のような写真の「腕」が欲しいな。

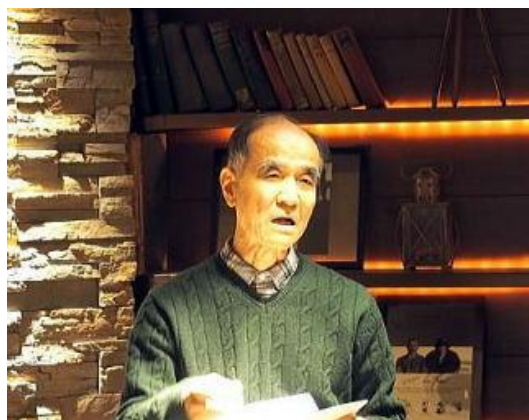
まずは、11時半より、幹事達の受け入れ準備で、徐々に集まり始める。
受付、会計は幹事の河合さん、飯田廣美さん、



今回は、今までのように仲の良い同士が自由に席に着くのではなく、受付で席表を
ランダムに渡し、席を決めた。皆からは、以前あまり話をした事が無かった人たちと
ゆっくり話が出来て、非常に良かった、と評価を頂いた。

12:00に忘年会開始、
幹事原君からの開会の挨拶と、今回の幹事紹介、会員の提案での、強制はしないが
出来るだけ博多弁で話そうよ、という話に続き、10年以上も長く一人で幹事をやって来て、
腰が悪く今回交代する多田君への感謝の言葉と、多田君からの一言、乾杯の音頭をお願いする。
笹原君の時代の後、一人で幹事を続けて来てくれた多田君には、本当に頭が下がり、感謝という
言葉しかない。

多田君、ありがとうございました。



その後、幹事の田邊君から、

会の進行説明、

恒例の全員の近況報告は時間の関係（２時間半強）で無し、

発言したい人は、自由に発言が可能、

会場の都合（他のお客さんの会も近くであった）で恒例の校歌、エールは無し、

今日は色々な人と話す事が主旨、との説明があった。

その後、一人 着物姿で参加した森田さんに発言を求め、「凄く高そうな着物だね？」の発言に、「これ普段着よ！」の答えに皆どよめいた！



幹事の一人であり、森田さんの近くの席の編者も、ちゃっかり「美女とカバ！」に納まった。写真班の編者は普段写真に写る事が少ないため、幹事の特権！

その後、太田君から、三宅君と一緒に志士の会を手伝っている、高本君、小島君との小グループ（千葉県船橋近辺）での定期的な「船橋 志士の会」の報告があり、望む人があれば、誰でも参加して欲しい、との発言があった。当然ながら、大御所、志士の会 大幹事三宅君からも追加説明があった。また遠方からの参加 田中（義一）君と、松浦君からも挨拶



後は、歓談に続いた。





年甲斐も無く、「飲み放題」につられて、みな結構飲んだようだ。各テーブルや、移動してでの会話が弾んだ。途中田邊幹事から、2024年度の幹事4人（女性2人、男性2人）+編者のサポート5人が発表された。

実は、来年の幹事を頼む、これと思われる人を7-8人選び、本人に承諾を求めた。ところが嬉しい事に聞いた全員が「OK」の返事、これには幹事もびっくり！皆のこの会を維持して行くという熱い協力精神に感謝。

コロナ以降会えない年月で、皆 老けたかな？と思ったが、意外と皆、昔と変わってなかった。ここで、皆の元気そうな顔写真を少し小さく紹介する





歓談も続く中、田邊幹事の紹介で、河合幹事による「じゃんけん大会：3名の勝者」が始まった。





最初の勝者は城野君、2番目が高山君、小さな商品をゲットした。
最後の3人目の商品が、「その日買った 宝くじ！」
接戦が続いた。最後に宝くじをゲットしたのは 田邊君だった！



「もしこれが当たったら、正直に話せ！」「当たったら、全員を世界旅行にでも招待しろ！」
「しばらくの筑志会の費用は田邊が持つ」、...、等々のヤジが飛んだ（笑）
でも田邊君、本当に当たったら「正直に発表しろよ！」

2時間半強の時間は短い！話は尽きない！
しかし、世の中が色々と変わって行く中で、21回生の連帯は変わらない。
それでも時間が来た。名残惜しいが、全員写真を撮る事にする。



来年また元気で会おう！

オンライン筑士会開催

12月10日(土) 19:00より、筑士会幹事 多田君の発案で「オンライン筑士会」が開催された。

対面かオンラインかで、色々議論があったが、コロナ第8波や感染状況を考えて、関東ではオンラインで実施することが決まり、22名がオンライン(ZOOM)に参集した。

参加者は、多田君、原君、牛島君、吉原君、高山君、高鍋御夫妻、高本君、三宅君、山根君、松浦君、城野君、森田さん、太田君、添田君、田中(義一)君、田中(昭)君、福嶋君、飯田(眞理)さん、脇さん、田邊君、そしてサブ幹事としてZOOMを推進した棚田の 計22名の参加となった。

ZOOMに慣れない人が多く、準備に苦労したが、何とか全員無事参加出来た。

脇さんだけは、どうしても映像だけが映らなかったのが音声だけの参加、誰かが「化粧が間に合わなかったちゃろう！」と発言、これは脇さんにも聞こえていたので、今度対面で会う時には、発言者は脇さんに相当やり込められるだろうな！(笑)

出たり入ったりがあったので、画像を3枚紹介





3時間以上の筑士会になったが、それぞれの近況では、やはり体調、障害、病気の話も多く、「ああ俺（私）だけじゃ無いんだ！」と妙に安心？した人も多かったと思う。

まだ仕事も続けている人もいて、生涯現役を目指しているのかな、と嬉しくなる部分もあり、健康寿命を延ばすために、「歩く」「散歩」7,000歩ー10,000歩をやっている人も多く、中には「女房と毎日散歩している」という人も居て、「毎日散歩で奥さんと、なんば話しよう？」という質問に「日頃は自分があまり話さないが、博多出身の家内には博多弁で色々話しかけて、もっばら家内は聞き役（笑）」という、ほほえましい場面もあった。

博多弁の話題も出て、（随分前の筑士会・波留美会で、ある女性から、何でもみな博多弁ばしゃべらんと！！と言われたことを思い出した）、時々帰福する人からも、今回福岡の忘年会に参加した松浦君からも、「昔、我々が中学・高校時代にしゃべったような博多弁は、今はあまり使われとらんよ」という報告があり、福岡を離れて長くなった人たちには、少し寂しい想いを感じたかもしれない。「故郷の停車場に そ（方言）を聞きに行けなくなった...」と石川啄木も嘆くかもしれないな、とふと思った。

次回の筑士会も志士の会も、オンラインか対面かでの議論になったが、やっぱり直接会いたか！
と言う人も多く、来年３月くらいの様子を見て考えようと言う事になった。
少人数で集まって飲むこともあるが、大人数での会となると、このご時世ではお店が、見つからない。
福岡の忘年会も、幹事の大浦君が大変苦労したと聞いた。

筑士会では、お店が無ければ（今までの店は廃業した）、以前やった河原でのバーベキューや、
街歩きをして、途中どこかで、外で弁当でも食べながらとか、３年前考えた屋形船で、、、など、
店が無ければその他の場所で、、、という風に、やはり対面で会いたいという意見が多かった。

志士の会、筑士会の幹事も含め、状況に応じて最善策を考え、出来れば対面での同窓会を目指そう、
と言う事になった。

福岡の忘年会や、筑士会や、折に触れての同級生の動向など、大勢で情報を共有できるこの
HP は、２１回生の「宝」だと言ったら、「国宝だ」 いや福岡県の「県宝」だとか、ラインでも色々な
意見が交わされた。やはり、歳と共に健康が理由で今後出席出来ない人も出て来るだろうから、
会えるうちに会う方が良い、という雰囲気が強かったように感じた。

コロナ、年齢、場所、タイミング等々、色々と考えねばならず、またいつか２１回生が一堂に会する
機会が来ることを念じつつ、報告を終わります。

それまで、皆、元気で暮らそうぜ！